

## 1 研究主題

「教わる」から「学びとる」授業への改善をめざして  
～「対話」を生み出すICTの効果的活用～

## 2 主題設定の理由

## (1) 社会の要請から

現代の子どもたちが活躍するであろう未来の社会は、AI技術の進歩やグローバル化等、変化の激しい世の中になることが予測されている。そのような社会を生きる子どもたちに必要となるのは、知恵の習得はもちろん、身の回りに起こる様々な問題に自ら向き合い、その解決に向けて多様な他者と協調しながら解決策を導き出していく力である。

昨年度から全面実施された新しい学習指導要領において、授業改善の取組の一つとして挙げられているのが、「主体的・対話的で深い学び」の実現である。教師が「アクティブラーニング」の視点からの授業改善に取り組み、子どもたち一人一人の学びを確かにしていくことが求められている。

## (2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標である大きな3つの柱は、「自律…自ら考え判断し、主体的に行動する。」「尊重…違いを理解し、他者を尊重する。」「協働…他者と協力して課題を解決していく。」である。また、学校経営のテーマを「コミュニケーション」「協働」「対話」「Change（学び続けて変わる）」と掲げ、学校総体となって、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、授業づくりに取り組んでいる。教師が「教える」授業から、子ども自ら「学びとる」授業を目指し、子どもたちの学習意欲を高めながら確かな学力をつけていくことが、学校教育目標の「自律」「尊重」「協働」の育成につながると考える。

## (3) これまでの研究から

本校はこれまで、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、授業改善に取り組んできた。その取組の成果として、児童のタブレット活用スキルの向上、児童の対話を通して学び合いの充実、児童の学習意欲の向上を図ることができた。その成果を生かしつつ、熊本市教育委員会から示されている「めあて」「対話（アウトプット）」「振り返り」の3つのポイントを踏まえながら、児童が「教わる」から「学びとる」授業へのさらなる改善を目指しているところである。しかし、「学びとる」授業とはどのようなものか、教師は模索しながら授業づくりに努めてはきたが、それが学びの主体である児童の学びへは十分につなげることがまだできていない。そのため、今年度は「学びとる」授業のイメージを学校全体でしっかりと共有し、「対話」を生み出し、深い学びにつながるためにICTを活用するという原点に立ち戻り、研究を深めていく必要がある。

### 3 研究テーマについて

#### (1) 主題、副題について

授業改善の視点として示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現には、学習内容の一方的な教授ではなく、児童同士が様々な価値観を交流し合い自分の考えを深める活動を十分に取り入れる必要がある。また、授業者が児童に身につけさせたい力や指導事項を明確にもち、意図的に対話が生まれる場を設けることにより、質の高い学びが生まれることになるであろう。そして、児童が学んだことを自分の言葉で振り返り、自分の伸びや学んだことを認識できることが、学ぶ喜びにつながり、学習意欲を高めることへもつながると考える。新学習指導要領では、学習の基盤となる力として、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の3つが示されていることを踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、熊本市教育委員会より、児童が「学びとる」授業への転換について示されている。本校においても、児童が主体的に課題に取り組み、自分の思いや考えを表現し、伝え合い学び合うような、「学びとる」授業をめざしていく。

また、「主体的で対話的な学び」を授業の中で具現化できるようにするために、タブレット等のICT機器は有効的な学習ツールである。副題の「ICTの効果的活用」には、私たち教師がそれらのICT機器の活用を含めた授業改善を重ね、効果的な手立てを考えていくことはもちろん、児童が学び合い伝え合う場面において、タブレット等のICTを効果的に活用することで、確かな学力向上につなげていくという意味合いを込めている。つまり、ICTを活用することで、単に児童の学習意欲や、教師の活用スキルを向上させるだけではなく、児童が主体的に学び合う「対話」を生み出すために、どのようにICTを活用していくかが鍵となる。

私たち教師が、もう一度「主体的で対話的な学び」の本質をとらえなおし、授業改善に取り組んでいかなければならない。そうすることで、毎日の授業の中で、子どもたちの「わかった」「できた」「伝えたい」の声が聞こえ、学ぶよろこびや楽しさを体得する子どもの姿をめざしたい。

#### (2) 具体的取組

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、熊本市教育委員会より「授業づくり3つのポイント」が示されている。児童主体の学びとなるよう、この3つのポイントを踏まえながらICTを活用した授業改善に努める。

##### ①授業改善 令和版「学びわくわく熊本市の授業づくり」3つのポイント

- |                              |
|------------------------------|
| ①めあて<br>②対話(アウトプット)<br>③振り返り |
|------------------------------|

児童主体の学びとなるように、ICTの効果的な活用を絡めつつ、この3つについてどのような手立てが効果的であるのか、研究授業または日々の授業を通して検証していく。

##### ②学習規律・学習訓練の徹底

・幼小中連携「くすのきスタンダード」「くすのきルール」の徹底

##### ③家庭学習習慣の定着と内容の工夫

- ・保護者への啓発 「家庭学習の手引き」
- ④個に応じた指導 ドリルパークの活用
  - ・「くすのきタイム」 … タイピングスキルアップ、情報モラル教育、ドリルパーク、など
  - ・「学びタイム」 … 計算、コミュニケーション、英語に加えて話の聞き方・伝え方 など
- ⑤教師の ICT 活用スキルの向上
  - ・ICT を活用した実践の共有
  - ・日常的な情報交換
  - ・ミニ研修の実施

#### 4 研究の内容

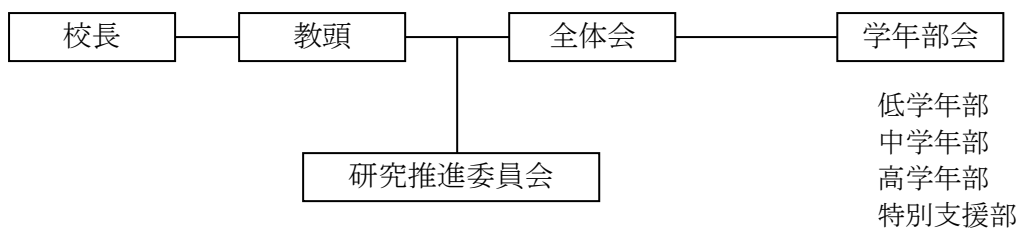
##### (1) めざす児童像

学習活動に主体的に参加し、友達の考えをしっかりと聞き、自分の考えを表現できる児童

##### (2) 研究の視点

- ①「教わる」から「学びとる」授業の工夫
- ②「対話」を生み出すための ICT の効果的な活用
- ③教師の協働的な学び合い

#### 5 研究の組織



<研究推進委員会> 校長・教頭・教務・研究部・研究推進委員

- ① 校内研究の内容や方法の計画・立案
- ② 研修会・授業研究会を計画・運営
- ③ 研究資料の収集や提供、児童アンケートの集計・分析(学年)
- ④ 学びタイムの計画・運営

##### (学年部会)

- ① 研究の具現化(実態把握・つきたい力・具体的実践など)
- ② 日頃の授業実践や研究授業についての話し合い